

明 — みょう —

真宗大谷派 本明寺通信

No.28

2013年4月1日発行



葛西臨海公園（2012年5月16日撮影）

御遠忌テーマ **今、いのちがあなたを生きている**

真宗大谷派
東本願寺
75th Shinran



真のよりどころを
求めて

宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌法要

今、いのちがあなたを生きている

**真のよりどころを
求めて**

www.ji-n.net



東京教区 宗祖親鸞聖人七五〇回御遠忌法要

本明寺団体参拝



一月二十五日（金）～二十八日（月）の四日間、練馬区谷原にあります真宗会館に於いて、「東京教区 宗祖親鸞聖人七五〇回御遠忌法要」が厳修されました。この御遠忌法要は全九座の法要があり、御親修（門首が出仕）による法要や音楽法要も勤められました。四日間、合計一八一六名の方が参詣されました。

本明寺ではこの御遠忌法要に団体参拝を予定し、本明寺のご門徒五名の方々と共に、二十七日（日）の遠夜法要に参詣しました。五十年に一度のこの勝縁に、本明寺と

してご門徒と一緒に団体参拝ができたことを心より喜ばしく思います。

また、副住職はこの四日間、スタッフとして全日泊まり込みで参加しました。ある時は取材、記録のカメラマンとして。ある時は炊き出しボランティアとして。スーツ姿だったり、エプロン姿だったり、会場の至る所を走り回っていました。この団体参拝を企画したことによって、スタッフとしての御遠忌法要の参加ではなく、自分自身が一座でも参詣席に着き、一人の参詣者として御遠忌法要にお参りできたことがとてもよかったです。

この御遠忌法要団体参拝に参加された方々から感想をいただきましたので、ご紹介します。

日程

十四時 速夜法要

十五時五〇分 法話

(東京五組 存明寺住職

酒井義一氏)

十六時五〇分 休憩

十七時二〇分 報恩講の夕べ

(講談『フラガール物語

―常磐炭礦余聞―

講師 神田香織氏)

十九時三〇分 懇親会

参加者感想

横澤 正克 (墨田区在住)

一月二十七日、真宗会館に初めて訪れました。当日は会場満席の

多くの参詣者の参加によって、七五〇回御遠忌法要が厳かに勤められました。雅楽が奏でられる中、三〇名程の僧侶が入場着席した後、まず、「未曾有の大震災を経験し、また日々混沌とした現代社会の中に生きていく我々人間の歩むべき道が今こそ求められ、仏教として寺院の存在意義が問いかけられている。この事を直視し(歎異の精神)に応えなければならぬ」との表白がありました。

続いて、正信偈、念仏和讃が僧侶と共に参詣者一同で唱和しました。本格的法要の為か、いつもより念仏の調子が難しく、私はその唱和に合わせる事ができず苦労しましたが、大変良い経験になりました。

次に、東京五組存明寺の酒井講

師から法話がありました。「人は皆、自分の存在感を心の奥底で求め続けているのです」「人は皆、悲しみ・悩みを抱き続けている」「そんな現代に生きる人間の煩惱を親鸞聖人の教えはことごとく、これを救ってくれる」「親鸞聖人の教えとの出会いは、正に生きる力となっている」「この七五〇回御遠忌を次の新しい出発点としたい」概ねこの様な内容の法話を、大変解りやすくお話して頂きました。

五〇年に一度の御遠忌法要に参加し、身近に親鸞聖人の教えに接することができました。七五〇回御遠忌法要はこれで終了しましたが、自分自身のこれからの人生を生きていく新たなスタートにしたと考えています。

行ってきました。一月二十七日、若住職のご案内で親鸞聖人七五〇回御遠忌法要に。次は五十年後で

任田 賢治（墨田区在住）



すのでこの機会を逃すわけにはいかない。大勢の老若（若は少ないが）門徒が来ておられました。

二時から勤行。正信偈を皆さんで唱和するのですが、私は普段の信心が足りないので非常に節回しが難しい。私の周りの人たちは大きな声で唱和しておられた。五線譜で表示してあればこんな私でも少しはついていけるのでは？

若住職はご住職仲間からよく声をかけられており不断の活躍を感じる事が出来ました。

二時から七時までと長い時間でしたが、お寺との繋がりが「死」ではなく、明るいものと感じました。

滝口 和彦（春日部市在住）



映画『フラガール』を講談で演じる。最初は漠然とそんな思いでした。ところが、福島の三地

方の特性に始まり、東日本大震災の被害状況。避難女性の「放射能まみれの福島に電力会社の人間は住め！」の抗議文。原爆の悲惨さを描いた『はだしのゲン』作者中沢啓治さんとの出会いで、神田香織さんご自身が講師として新境地を開く話。そして、常磐炭礦の閉山で職を失う人々へと、まるでフラッシュバックの様に、時代の流れに翻弄される人々の辛い思いが披露されました。

人は多くの困難に遭遇しながら、それでも得がたい人と出会い、そして、生きていく。音と光の演出効果満点の闊達な語り口に接し気が付けば、そんな思いに浸ってしまいました。そういえば「タンコータインコーってバカにすんでね。このいんごったがりー…」の福島弁が



神田 香織氏

迫力満点の『フラガール』でも、素晴らしい先生との出会いが発端となり、炭礦娘の奮闘が実り、成功へと導かれて行ったのでした。

(東京教区宗祖親鸞聖人御遠忌報『真求』No.十二掲載記事より)



◆二月十二日(火)～

十四日(木)

ボランティア研修会

二月十二日(火)～十四日(木)、東北別院において、第三回ボランティア研修会(組織部主催)が開催されました。同朋相互扶助の精神に立脚した災害救援・復興支援制度を確立することを目的に、各教区におけるボランティア体制の構築と、その中核を担う人材育成を行う」ことを趣旨とし、二十八教区から、また大谷大学、同朋大



学から、三十五名が参加しました。一日目、木越康氏（大谷大学准教授・真宗大谷派ボランティア委員会委員）による基調講義が行われました。講題は「真宗におけるボランティアの位置づけを真宗門

徒が実践することの意義について考える」でした。『明一みょう一』No.27「真宗ボランティア研修会」の内容を参照してください）

続いて、パネルディスカッション①「東日本大震災から問われたもの」として、東日本大震災で果たした役割と果たせなかったこと、今後の課題等について「現場」と「支援者」それぞれの立場からディスカッションが行われました。

その後、「私のボランティア観」ということで班活動を行いました。班は連区ごとに編成され、ボランティアにおいて連区のつながりを重要とされていることを感じました。

二日目、被災地視察で、仙台市若林区、名取市閑上に向かいました。閑上に訪れたのは震災直後（二

〇一一年三月三十日）以来でした。今回、訪れて感じたことは「何もなくなった」でした。震災前は住宅街。震災直後は見渡す限り広がる瓦礫、車が何台も突っ込んだコンビニ。震災の爪痕が大きく残されていました。現在は瓦礫もなく、車が突っ込んでいたコンビニも再開していました。震災前、震災直後の風景を知らない人には、元々このような場所だったと思えてしまいうくらい何もなくなっていました。この閑上地区は海面からの高さ7m以上の防波堤と4mものかさ上げをすることによって住むことができない地域になっています。午後はボランティアの実践として、仙台市若林区日辺の仮設住宅にて炊き出しと足湯を行いました。



三日目、パネルディスカッション②「原発事故から問われたもの」として、放射能汚染による被災者と、放射能汚染による一時疎開などを行っている支援者にお話を伺いました。

全体を通して、被災地から遠近に関わらず、ボランティアに対する意欲的思いがある人が多いこと、また被災地から近ければ近いながらも、遠ければ遠いながらも支援の形を模索して活動しているのだと感じました。

また今回の震災に留まらず、今後も起こりうる災害に対して教区を越えて、共に活動することができると関係性のご縁をいただきました。

（同朋社会推進ネットワーク
『しゃばネット』掲載記事より）

◆二月十四日（木）～
十五日（金）

東日本大震災

復興支援ボランティア

二月十三日～十五日、石巻市飯野川・水浜・追波川で活動をしました。今回は茨城一組の活動に同朋社会推進ネットワークがコラボする形で行いました。

茨城一組は震災直後から石巻を中心に物資搬入、炊き出しなどの活動を行っています。その活動の中で、ラーメンの炊き出しはすごいです。お店を開けるくらいの出来栄えに、みなさん笑顔で召し上がっている姿が印象的でした。茨城一組の活動はブログでも見ることができしますので、ぜひご覧ください。



今後も、同朋社会推進ネットワークと茨城一組がコラボを活動する予定です。茨城一組の活動からいろいろなと学びたいと思います。
(同朋社会推進ネットワーク『しゃばネット』掲載記事より)



茨城一組 東日本大震災
被災者支援活動報告
<http://ibaraki1kumi.blog.fc2.com/>

◆三月十三日(水)

3・11東日本大震災・

心に刻む集い

明日に向かって輝く響き

三月十三日(水)、仙台国際センターにて「3・11東日本大震災・心に刻む集い 明日に向かって輝く響き」(仙台教区主催)が行われました。この集いの参加者は宗門内のみにとどまらず、岩手県、宮城県、福島県の被災地(仮設住宅)からも多くの方が参加されました。

開会式では喚鐘、勤行に続き、表白があげられました。この表白は「私はきく」という形で、震災以降、被災地で自身が経験したこと、自身が見聞きし、自身が感じたことがつらつらと述べられ、



本当にその場にいる全ての人は自分のこととして、重く受け止められたことと思います。

その後、トーク&ライブが二部

構成で行われました。第1部では地震被害、津波被害の地域の被災者と、それらの地域で活動する支援者から、第二部では放射能被害による被災者と支援者からリレートーク形式で、それぞれの立場からの思いの語り合いが行われました。各部の終わりにはプロアーティスト（第一部・シュガースタイルスピリット／第二部・メテイス）によるライブが行われました。（『ネットワーク9』掲載記事より）

その他の歩み



◆二月一日（金）

東京一組 よにん会

◆二月十日（日）

児連 子ども会

◆二月二十六日（火）

四期会

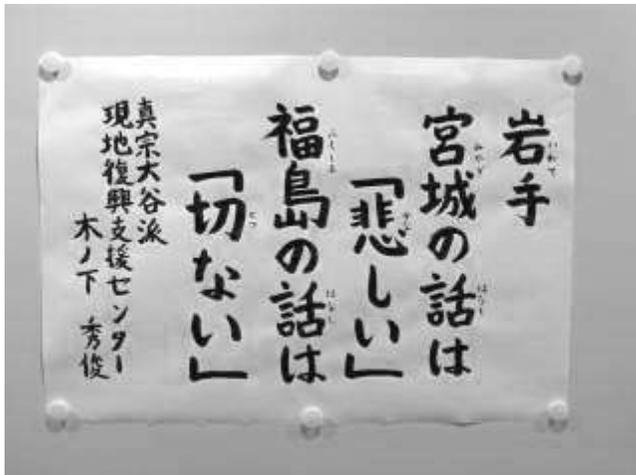
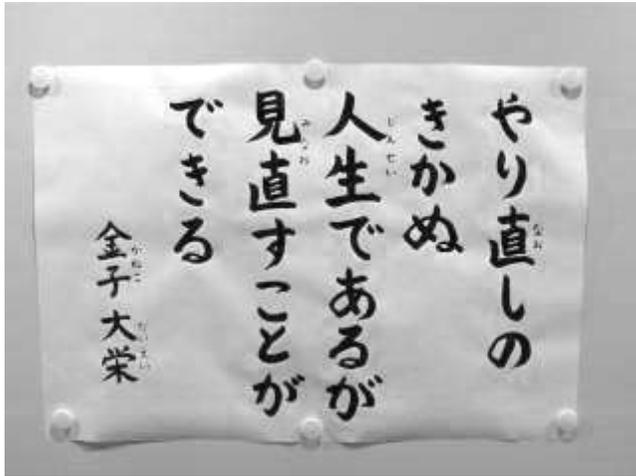
◆三月二日（土）

湾岸親鸞講座④

◆三月五日（火）～六日（水）

青年のつどい

などなど



お寺の掲示板

一月

二月

一月
二月
三月

三月



本明寺の予定

◆本明寺 花まつり (子ども会)

期 日：四月十四日 (日)

日 程：13:00 受付

13:30 開会・お勤め・お話

14:00 ゲーム

15:00 おやつ

16:00 閉会

会 費：三〇〇円

対 象：どなたでも参加できます。

(でも、子どもが主役です)

※小学校二年生までは保護者同伴でお願いします。

四月一日は親鸞聖人の、八日はお釈迦さまのお誕生日です。

花まつり (子ども会) では、お寺でお話を聞いたり、遊んだりしましょう。ぜひ参加ください。

※日程は変更することがあります。

◆本明寺 おみがき奉仕のつどい

期 日：五月十九日 (日)

時 間：十三時～十六時

一緒に仏具をきれいにしながらお話をしませんか。お気軽にご参加ください。

◆本明寺 永代経法要

期 日：五月二十六日 (日)

日 程：十三時 永代経法要

十四時 法話

十五時 お齋

永代経法要とは、永代にわたりお経 (教え) が大切に受け継がれることを願ってお勤めする法要です。ご家族にもお声かけをし、ご一緒にご参加くださいますようお願い申し上げます。

※お申し込み・お問合せは、お気軽に本明寺までご連絡ください。

◆本明寺 聞法会

期 日.. 四月二十八日(日)

時 間.. 十五時~十七時

お 話.. 本田 彰一(本明寺副住職)

テ ー マ.. 親鸞聖人に人生を学ぶ

(親鸞聖人のご生涯を通して教えを学びます)

参加費.. 500円

一緒に親鸞聖人が歩まれたお念仏の教えに学んでいきましょう。

次回がいよいよ最終回です。

◆次期 聞法会

期 日.. 六月 三十日(日)

七月二十八日(日)

八月二十五日(日)

九月二十九日(日)

時 間.. 十五時~十七時

お 話.. 本田 彰一(本明寺副住職)

テ ー マ.. 正信偈に学ぶ

(親鸞聖人が作られた正信偈を通して教えを学びます)

参加費.. 500円

「正信偈」は、日ごろ多くの方がお勤めに用いているお聖教です。

「正信偈」は、親鸞聖人が、ご自身のところにまで伝え届けられた念仏の教えの伝統を、深い感銘をもって受けとめられ、そしてその感銘を詩(偈文)の形で表現したものです。その「正信偈」を通して、親鸞聖人が出遇われた念仏の教えを学んでいきたいと思います。

多くの方のご参加をお待ちしています。

年忌案内	
2013年(平成25年)	
回忌	命終された年
1周忌	2012年 (平成24年)
3回忌	2011年 (平成23年)
7回忌	2007年 (平成19年)
13回忌	2001年 (平成13年)
17回忌	1997年 (平成9年)
23回忌	1991年 (平成3年)
(25回忌)	1989年 (平成1年)
27回忌	1987年 (昭和62年)
33回忌	1981年 (昭和56年)
50回忌	1964年 (昭和39年)
70回忌	1944年 (昭和19年)
100回忌	1914年 (大正3年)

◆湾岸親鸞講座 (市民講座)

テーマ..親鸞の詩―『正像末和讃』に学ぶ―

日程..⑤四月 二十日(土)

⑥六月二十二日(土)

講師..木越康氏(大谷大学教授)

受講料..1,000円

会場..江東区産業会館、他

東京都江東区東陽四・五・十八

東京メトロ東西線「東陽町駅」4番出口横

副住職もスタッフとして参加していますので、ぜひご参加ください。

このような時にお参りします

◆法事

上記の年回忌や四十九日法要など

◆祥月命日

上記の年回忌以外の当月命日

◆月命日

毎月の命日

◆春秋彼岸

春季(三月)、秋季(九月)のお彼岸

◆お盆

七月(都内)八月(都外)のお盆

◆その他の仏事

誕生記念、入学祝い、卒業祝い、成人記念、結婚式、お内仏(お仏壇)安置、入仏式など慶弔を問いません

お参りをご希望される方は、日程、場所(お寺、ご自宅、墓地など)が決まりましたら、一カ月前までにお寺までご連絡ください。ご希望に添えない場合もございませうがご了承ください。

◆ 私たちの真宗 ◆

- 一、本尊 阿弥陀如来
- 二、宗祖 親鸞聖人
- 三、宗旨 浄土真宗
- 四、宗派 真宗大谷派
- 五、本山 真宗本廟（京都・東本願寺）
- 六、経典 浄土三部経 仏説無量寿経
仏説観無量寿経
仏説阿弥陀経
- 七、教え 本願を信じ、念仏もうさば仏になる
- 八、称名 南無阿弥陀仏
- 九、勤行 正信偈・念仏・和讃・回向・御文
- 十、宗風 礼拝の生活
《朝夕に勤行をいたしましょう》
正信の生活
《迷信に惑わされないで歩みましょう》
聞法の生活
《仏法を聴聞し、生まれた意義と
生きる喜びをみつけましょう》

あとがき

▼景気の「気」は気持ちの「気」。アベノミクスの効果だろうか「景気が良くなりそう」的な報道がされています。景気にかまけて、本当に大切なことを見過ごさないように、しっかり考えたいです。

★ご意見・ご感想・ご質問などをお待ちしています。

★バックナンバーをご希望の方はご連絡ください。すぐにお送りいたします。

発行 真宗大谷派 本明寺
副住職 本田 彰一（釋 彰一）
〒130-0012 東京都墨田区太平二・七・一
TEL 03-3623-1536
FAX 03-3623-1538
E-mail honmyouji@mx1.ttcn.ne.jp
URL <http://www1.ttcn.ne.jp/honmyouji/>